

現存せず聞き取り 平成12年度調査

大分市内の神楽調査票

公民館名

NO

項目 番号	調査内容	回答内容
1	神楽社中（保存会）の名称	不明
2	神楽社中の所在地	常行
3	神楽社中の代表連絡先	<input type="checkbox"/> 住所 常行 岩丸小路 <input type="checkbox"/> 氏名 岩田喜一(死亡) <input type="checkbox"/> 電話
4	神楽社中の構成員数	(約 10人) 名
5	神楽社中の創設時期	<input type="checkbox"/> 明治 (中期) 年 <input type="checkbox"/> 大正 () 年 <input type="checkbox"/> 昭和 (5年頃本格化) 年 <input type="checkbox"/> 平成 () 年
6	神楽の流派	<input type="checkbox"/> (不明) 流
7	現在、演じることのできる神楽の演目	現存者なしで不明
8	神楽と社中の特徴についてわかりやすく書いてください。	別紙参照 沿革、推移、神楽の種別、人教 等、廃絶は昭和18年の大洪水と共に

■子供神楽についても記入してください

■むかしあったが、現在は行われていない神楽についても、わかる範囲で記入願います。その場合、創設時期と廃絶時期についてもわかればお願いいたします。

高田神楽の沿革

創立は明治中期と思われ、が詳細は次頁料なき為不明
 今より約八十年前常行山石丸小路山石田喜一なる者
 近所、若者十人余を徒木め立無舞、指道守諸道具の
 作成、諸備完了により充実に神楽団が出来上り
 近村より招きにも心した
 流儀は不明なるも世評は好評の様だ
 大分郡明治村二目川にて指道守教授 現在も現存し
 村内の祭典には興をもとえてゐるようである

現在までの推移

私達子供頃より 村内二社の祭典、唯一の余興ハト
 村民を賑わしませよと、昭和五年頃人員の増強
 衣装の新調、留太鼓、面、新調をし、興業化し
 各地に招待され大好評を博し、時もあり

時勢がら自然に調落

満洲事変・大東亜戦争の拡大 折も折昭和十八年
例の大洪水に衣装道具一切流失 ことに高田神楽本は
永年の百中を閉じた

神楽の種類

一、ひい神楽 お姫様のまじりにしたやかな舞

一、山石戸神楽 四人で鎧を着て刀を振りかぶって舞う

一、芝心神 芝引とりつて一番子供が喜こび子供と

カビハをしい

一、蛇切 イヤ 長崎のおくんちの舞に似たもので長崎のま

約子の蛇の太さ スサノウの尊との大格闘が

はじまる

左の神楽を全部舞うと三十三番一晩中舞う通す

高田の神楽の日は 旧の二月二十二日 新 七月九日大祭

夜は浪曲が行われに新十月二十五日火祭(鎮火祭)

メンバーは常行・岩丸小路の男子 約十人位

（四小路）

スサノウノ笛

仲摩貞次郎（蛇は適當）

箱日姫

仲摩八百蔵

（左人が笛子）

箱日姫の父

仲摩民次

荒神

仲摩貞次郎

〃

仲摩春太郎

〃

仲摩奥太郎

〃

仲摩乙蔵（荒神の犬先輩）

ヒョットコ

東格太郎

〃

仲摩益人

はやしん

四名（大太鼓一名 小太鼓一名 撞笛一名）

あさせ鐘一名

資料全くたゞ見覚え之、記憶にたよる

二〇〇〇年七月二十七日

仲摩貞夫 記

明治四十一年八月三十日生れ九十六